

令和5年3月29日

第13回薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会

参考資料4

薬剤師の偏在への対応策

薬剤師の偏在への対応策の検討について

「薬剤師確保のための調査・検討事業」（令和4年度予算事業）において、最新の統計情報（薬剤師本人調査、三師統計）の解析、及びその結果に基づく地域偏在・業態偏在に効果的な薬剤師確保に資する方策について検討を行った。

薬剤師本人調査の概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none">・ 病院・薬局ごとに、都道府県ごとの抽出件数を定めた上で都道府県ごとに無作為抽出を行い、病院合計で4,984件、薬局合計で3,948件をアンケート調査（病院・薬局調査）の対象とし、そこに勤務する全ての薬剤師を本人調査の対象とした。
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・ WEB回収
調査期間	<ul style="list-style-type: none">・ 令和4年11月2日～令和4年12月30日（薬剤師本人調査）
回収結果	<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤師本人調査 11,699件 ※配布数が不明のため回収率は不明 （参考：病院1,308件（26.2%）、薬局1,170件（29.6%）からアンケート調査票を回収）
主な調査事項	<ul style="list-style-type: none">・ 回答者の基本属性（現在の年収 等）・ 仕事等への全般的な意識・ 勤務先や勤務地域への意識 等

医師・歯科医師・薬剤師統計（三師統計）の概要

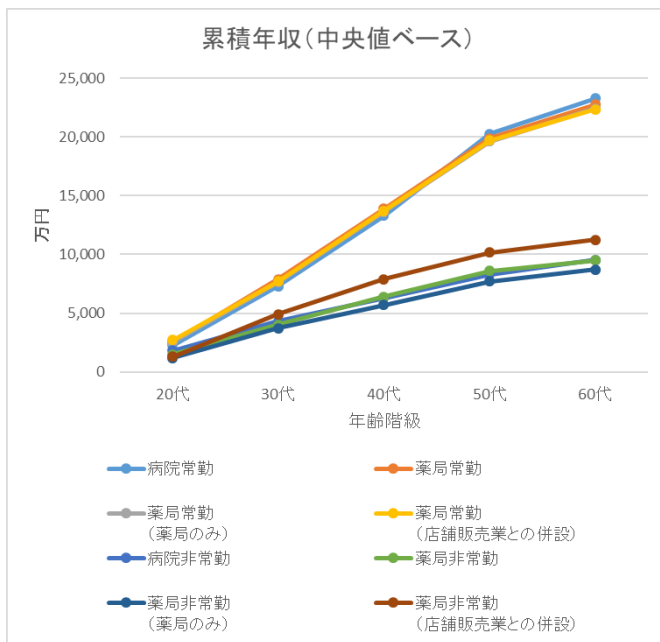
使用したデータ	<ul style="list-style-type: none">・ 医師・歯科医師・薬剤師統計 個票データ（薬剤師分）
データの年度	<ul style="list-style-type: none">・ 平成30年度、令和2年度
データ項目	薬剤師の登録番号ごとに、薬剤師届出の内容（下記）が含まれる。 <ul style="list-style-type: none">・ 登録番号、登録年月日、生年月日・ 性別、年齢・年齢階級、業務の種別、従事市町村コード/二次医療圏コード、就業形態、休業の取得 等

病院・薬局間の給与格差の実態

- 各年代における合計の年収を累積した累積年収について、65歳まで働くことを想定した場合、常勤の病院薬剤師（23,280万円）と薬局薬剤師（22,768万円）との生涯年収の差額は512万円であり、大きな差異はみられなかった。
- 学生が就職先を選択する際に考慮する要素の上位に「給与水準」があげられていることから、20代での病院・薬局間の給与格差が病院への就職に影響していることが考えられる。
- 病院における対応策として、薬局に近づくよう、**年代別の給与水準の上昇率をなだらかにし、生涯年収は変えずに、20代、30代の給与水準を高くすることが考えられる。**

薬剤師
本人票

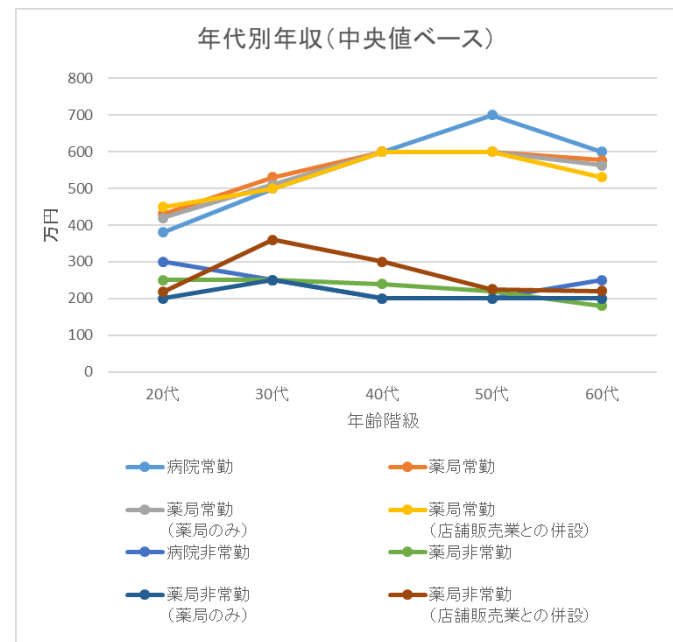
累積年収（薬剤師本人票 中央値）



(万円)

薬剤師
本人票

年代別平均年収（薬剤師本人票 中央値）



(万円)

	常勤				非常勤			
	病院常勤	薬局常勤	薬局常勤(薬局のみ)	薬局常勤(店舗販売業との併設)	病院非常勤	薬局非常勤	薬局非常勤(薬局のみ)	薬局非常勤(店舗販売業との併設)
20代	2,280	2,580	2,520	2,700	1,800	1,500	1,200	1,305
30代	7,280	7,880	7,620	7,700	4,300	4,000	3,700	4,905
40代	13,280	13,880	13,620	13,700	6,300	6,400	5,700	7,905
50代	20,280	19,880	19,620	19,700	8,300	8,600	7,700	10,155
60代	23,280	22,768	22,433	22,350	9,550	9,500	8,700	11,255

	常勤				非常勤			
	病院常勤	薬局常勤	薬局常勤(薬局のみ)	薬局常勤(店舗販売業との併設)	病院非常勤	薬局非常勤	薬局非常勤(薬局のみ)	薬局非常勤(店舗販売業との併設)
20代	380	430	420	450	300	250	200	217.5
30代	500	530	510	500	250	250	250	360
40代	600	600	600	600	200	240	200	300
50代	700	600	600	600	200	220	200	225
60代	600	577.5	562.5	530	250	180	200	220

薬剤師のニーズを捉えた薬剤師確保策（仕事面）①

- 年収、昇給ペース、業務内容・やりがいを勤務先を決める時点で知っていたか否かとそれらについての就職後の認識との関係を見ると、就職前に知らなかった薬剤師は、知っていた薬剤師と比べ、**就職後に年収や昇給ペースが低い、業務内容・やりがいに違いがあったと感じる割合が高かった。**
- 年収、昇給ペース、業務内容・やりがいを勤務先を決める時点で知っていたか否かと、それらを理由に転職を考えるか否かとの関係を見ると、就職前に知らなかった薬剤師は、知っていた薬剤師と比べ、**昇給ペースや業務内容・やりがいを理由として転職を考えている人の割合が高くなる傾向がみられた。**薬剤師の離職防止のためには、**就職前に昇給ペース、業務内容・やりがいなどについて十分に情報提供を行うことが望まれる。**

薬剤師本人票

		病院			薬局				
		調査数	高かった	ほぼ同様だった	低かった	調査数	高かった	ほぼ同様だった	低かった
Q2-3 1) 就職初年度の年収について現在の勤務先の就職先として決める時点の想像と現在の違い									
Q2-2 1)	全体	8734	372	5568	2794	2965	300	2172	493
		100.0	4.3	63.8	32.0	100.0	10.1	73.3	16.6
	十分に知っていた	947	85	749	113	841	139	638	64
		100.0	9.0	79.1	11.9	100.0	16.5	76.9	7.6
	おおよそは知っていた	5613	171	1960	1482	1687	106	1319	262
		100.0	3.0	34.6	26.4	100.0	6.3	78.2	15.5
	全く知らなかった	2174	116	859	1199	437	55	215	167
		100.0	5.3	39.5	55.2	100.0	12.6	49.2	31.7

		病院			薬局				
		調査数	高かった	ほぼ同様だった	低かった	調査数	高かった	ほぼ同様だった	低かった
Q2-3 2) 昇給のペースについて現在の勤務先の就職先として決める時点の想像と現在の違い									
Q2-2 2)	全体	8734	369	4857	3508	2965	235	1682	1048
		100.0	4.2	55.6	40.2	100.0	7.9	56.7	35.3
	十分に知っていた	415	33	331	51	429	62	305	62
		100.0	8.0	79.8	12.3	100.0	14.5	71.1	14.5
	おおよそは知っていた	3673	105	662	906	1317	70	919	328
		100.0	2.9	18.0	24.7	100.0	5.3	69.8	24.9
	全く知らなかった	4646	231	1864	2551	1219	103	881	658
		100.0	5.0	40.1	54.9	100.0	8.4	37.6	54.0

		病院			薬局		
		調査数	違いはなかった	違いがあった	調査数	違いはなかった	違いがあった
Q2-3 3) 業務内容・やりがいについて現在の勤務先の就職先として決める時点の想像と現在の違い							
Q2-2 3)	全体	8734	5106	3628	2965	2025	940
		100.0	58.5	41.5	100.0	68.3	31.7
	十分に知っていた	483	421	62	427	379	48
		100.0	87.2	12.8	100.0	88.8	11.2
	おおよそは知っていた	6466	1355	2331	2126	1496	630
		100.0	20.9	36.1	100.0	70.4	29.6
	全く知らなかった	1785	500	1235	412	262	150
		100.0	30.8	69.2	100.0	36.4	63.6

		病院			薬局		
		調査数	考えている	考えていない	調査数	考えている	考えていない
Q2-4 1) 就職初年度の年収が想像と違っていたことを理由として転職することを考えるか							
	全体	2794	1071	1723	493	168	325
		100.0	38.3	61.7	100.0	34.1	65.9
	十分に知っていた	113	36	77	64	16	48
		100.0	31.9	68.1	100.0	25.0	75.0
	おおよそは知っていた	1482	624	858	262	99	163
		100.0	42.1	57.9	100.0	37.8	62.2
	全く知らなかった	1199	411	788	167	53	114
		100.0	34.3	65.7	100.0	31.7	68.3

		病院			薬局		
		調査数	考えている	考えていない	調査数	考えている	考えていない
Q2-4 2) 昇給のペースが想像と違っていたことを理由として転職することを考えるか							
	全体	3508	1711	1797	1048	438	610
		100.0	48.8	51.2	100.0	41.8	58.2
	十分に知っていた	51	9	42	62	17	45
		100.0	17.6	82.4	100.0	27.4	72.6
	おおよそは知っていた	306	459	447	228	145	183
		100.0	50.7	49.3	100.0	44.2	55.8
	全く知らなかった	255	1243	1308	65	276	382
		100.0	48.7	51.3	100.0	41.9	58.1

		病院			薬局		
		調査数	考えている	考えていない	調査数	考えている	考えていない
Q2-4 3) 業務内容・やりがいが想像と違っていたことを理由として転職することを考えるか							
	全体	3628	1856	1772	940	450	490
		100.0	51.2	48.8	100.0	47.9	52.1
	十分に知っていた	62	22	40	48	7	41
		100.0	35.5	64.5	100.0	14.6	85.4
	おおよそは知っていた	2331	1195	1136	630	303	327
		100.0	51.3	48.7	100.0	48.1	51.9
	全く知らなかった	355	639	596	52	140	122
		100.0	51.7	48.3	100.0	53.4	46.6

薬剤師のニーズを捉えた薬剤師確保策（仕事面）②

- 現在の勤務先・勤務地を就職先として決めた前後における、仕事面における意識をみたところ、就職前に重視していた点の上位は、病院では業務内容・やりがい・給与水準であるが、薬局では給与水準・通勤時間の長さ・勤務時間の長さであり、病院・薬局とで薬剤師が重視する事項は異なる。
- 就職前に不安に感じていた事項の上位のうち、病院において、「給与水準」が薬局より14ポイント程度高く、また就職後に不安が残る割合が26.3%と不安が解消していない人の割合が比較的高い点が特徴的である。残存する不安の割合を見ると、総じて、病院の方が薬局より割合が高い。
- 採用においては病院・薬局ごとに薬剤師が重視する事項の違いや、病院においては「給与水準」への不安への対応として、不安をなるべく少なくするために「給与水準」について求職者への説明を丁寧に行うこと、また定着の観点では、病院において残存する不安の解消に向け、面談などを行い勤務する薬剤師の不安を把握し、解消に向けた取り組みを続けること、などを踏まえ確保策を企画・運営することが有用と言える。

現在の勤務先・勤務地を就職先として決めた前後における意識（仕事面）（勤務年数5年未満）（病院・薬局別）

薬剤師本人票	病院										薬局												
	1)就職前に重視していた点		2)就職前に不安に感じていた点		3)就職後に不安が解消した点		残存する不安(差分) 2)-3)	残存する不安(割合%) (2)-3)/2)	4)就職後に魅力を感じている点		5)現在、転職検討の要因になっている不満を感じる点	1)就職前に重視していた点		2)就職前に不安に感じていた点		3)就職後に不安が解消した点		残存する不安(差分) 2)-3)	残存する不安(割合%) (2)-3)/2)	4)就職後に魅力を感じている点		5)現在、転職検討の要因になっている不満を感じる点	
	調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%			調査数	割合%		調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%			調査数	割合%		調査数
給与水準	3210	100.0	3210	100.0	2676	100.0	26.3	72.5	3210	100.0	3210	100.0	1110	100.0	1110	100.0	864	100.0	1110	100.0	1110	100.0	
昇給ベース	1384	43.1	1166	36.3	267	10.0	20.0	76.3	413	12.9	943	29.4	678	61.1	250	22.5	100	11.6	260	23.4	201	18.1	
勤務時間の長さ	512	16.0	842	26.2	165	6.2	16.8	57.5	174	5.4	663	20.7	197	17.7	256	23.1	66	7.6	15.5	67.1	76	6.8	
勤務時間の長さ	965	30.1	938	29.2	333	12.4	16.8	57.5	457	14.2	506	15.8	438	39.5	266	24.0	109	12.6	11.4	47.5	174	15.7	
短時間勤務のしやすさ	416	13.0	375	11.7	139	5.2	6.5	55.6	306	9.5	165	5.1	207	18.6	132	11.9	53	6.1	5.8	48.7	112	10.1	
勤務日に勤務時間を柔軟に設定しやすいか	676	21.1	613	19.1	243	9.1	10.0	52.4	483	15.0	291	9.1	346	31.2	239	21.5	104	12.0	9.5	44.2	175	15.8	
付与された休暇日数	824	25.7	501	15.6	195	7.3	8.3	53.2	530	16.5	247	7.7	317	28.6	172	15.5	71	8.2	7.3	47.1	140	12.6	
休暇の取りやすさ	1132	35.3	1014	31.6	514	19.2	12.4	39.2	982	30.6	415	12.9	405	36.5	362	32.6	164	19.0	13.6	41.7	209	18.8	
通勤時間の長さ	1146	35.7	536	16.7	208	7.8	8.9	53.3	642	20.0	213	6.6	444	40.0	198	17.8	96	11.1	6.7	37.6	228	20.5	
通勤の利便性	1160	36.1	477	14.9	179	6.7	8.2	55.0	630	19.6	203	6.3	427	38.5	162	14.6	83	9.6	5.0	34.2	225	20.3	
業務内容	1674	52.1	816	25.4	330	12.3	13.1	51.6	669	20.8	443	13.8	425	38.3	220	19.8	107	12.4	7.4	37.4	167	15.0	
やりがい	1601	49.9	542	16.9	186	7.0	9.9	58.6	782	24.4	387	12.1	302	27.2	163	14.7	55	6.4	8.3	56.5	173	15.6	
他職種との関係性	859	26.8	676	21.1	296	11.1	10.0	47.4	531	16.5	199	6.2	127	11.4	145	13.1	61	7.1	6.0	45.8	101	9.1	
上司や同僚からのサポート	737	23.0	867	27.0	411	15.4	11.6	43.0	519	16.2	302	9.4	234	21.1	238	21.4	117	13.5	7.9	36.9	160	14.4	
職場の人間関係	1116	34.8	1404	43.7	699	26.1	17.6	40.3	647	20.2	446	13.9	386	34.8	431	38.8	248	28.7	10.1	26.0	238	21.4	
スキルアップのための研修制度	808	25.2	473	14.7	133	5.0	9.7	66.0	330	10.3	266	8.3	246	22.2	136	12.3	49	5.7	6.6	53.7	112	10.1	
副業のしやすさ	138	4.3	336	10.5	95	3.6	6.9	65.7	73	2.3	273	8.5	93	8.4	100	9.0	38	4.4	4.6	51.1	61	5.5	
福利厚生制度	997	31.1	405	12.6	134	5.0	7.6	60.3	531	16.5	209	6.5	294	26.5	156	14.1	54	6.3	7.8	55.3	115	10.4	
育休等の休業制度	565	17.6	344	10.7	142	5.3	5.4	50.5	375	11.7	127	4.0	181	16.3	124	11.2	41	4.7	6.5	58.0	105	9.5	
地域ならではの業務償行	163	5.1	314	9.8	123	4.6	5.2	53.1	120	3.7	95	3.0	87	7.8	119	10.7	56	6.5	4.2	39.3	55	5.0	
その他	29	0.9	27	0.8	9	0.3	0.5	62.5	21	0.7	38	1.2	11	1.0	10	0.9	5	0.6	0.3	33.3	2	0.2	
特になし	301	9.4	534	16.6					617	19.2	564	17.6	131	11.8	246	22.2					269	24.2	
現在転職を検討していない											896	27.9										314	28.3

薬剤師のニーズを捉えた薬剤師確保策（生活面）

- 現在の勤務先・勤務地を就職先として決めた前後における、生活面における意識をみたところ、仕事面と比べて、就職前に重視していた点や、不安を感じていた点、転職検討の要因になっている点などについて総じて回答割合が低かったが、就職前に重視していた点については、病院・薬局ともに40%程度の回答事項もあり、それなりに重視されている事項もみられた。
- 就職前に重視していた点の上位は、病院・薬局ともに「住居が快適か」が最上位で、ついで「スーパー、金融機関が整っているか」、「公共交通機関が整っているか」などであったが、これらは就職後に概ね不安が解消していたが、「介護が行いやすい環境か」、「リフレッシュできる施設・環境があるか」などについては、不安が残存している状況がうかがえた。
- 薬剤師確保においては、勤務先や勤務地の選択に際し、生活面についても重視している事項があることがうかがえたことから、**採用にあたっては、想定される居住地域の住居や居住環境などの情報を求職者である薬剤師にわかりやすく情報提供したり、これら生活面で重視する事項の環境整備を企画・運営することも有用と考えられる。**

現在の勤務先・勤務地を就職先として決めた前後における意識（生活面）（勤務年数5年未満）（病院・薬局別）

薬剤師本人票

	病院										薬局													
	1)就職前に重視していた点		2)就職前に不安を感じていた点		3)就職後に不安が解消した点		残存する不安(差分)2)-3)	残存する不安(割合%) (2)-3)/2)	4)就職後に魅力を感じている点		5)現在、転職検討の要因になっている不満を感じる点		1)就職前に重視していた点		2)就職前に不安を感じていた点		3)就職後に不安が解消した点		残存する不安(差分)2)-3)	残存する不安(割合%) (2)-3)/2)	4)就職後に魅力を感じている点		5)現在、転職検討の要因になっている不満を感じる点	
	調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%			調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%	調査数	割合%			調査数	割合%	調査数	割合%
	3210	100.0	3210	100.0	1758	100.0			3210	100.0	3210	100.0	1110	100.0	1110	100.0	597	100.0			1110	100.0	1110	100.0
自然災害が少ない地域か	629	19.6	533	16.6	193	11.0	5.6	33.7	457	14.2	113	3.5	275	24.8	182	16.4	81	13.6	2.8	17.1	222	20.0	49	4.4
物価が安い	400	12.5	346	10.8	145	8.2	2.6	24.1	315	9.8	102	3.2	153	13.8	103	9.3	49	8.2	1.1	11.8	125	11.3	34	3.1
スーパー、金融関係が整っているか	960	29.9	482	15.0	294	16.7	0.0	0.0	664	20.7	104	3.2	366	33.0	165	14.9	108	18.1	0.0	0.0	253	22.8	47	4.2
医療体制が整っているか	582	18.1	328	10.2	155	8.8	1.4	13.7	413	12.9	107	3.3	221	19.9	114	10.3	55	9.2	1.1	10.7	151	13.6	48	4.3
保育・教育環境が整っているか	514	16.0	343	10.7	158	9.0	1.7	15.9	308	9.6	120	3.7	202	18.2	112	10.1	50	8.4	1.7	16.8	133	12.0	38	3.4
介護が行いやすい環境か	242	7.5	251	7.8	88	5.0	2.8	35.9	156	4.9	108	3.4	107	9.6	77	6.9	23	3.9	3.0	43.5	70	6.3	39	3.6
住居が快適か	1197	37.3	520	16.2	316	18.0	0.0	0.0	786	24.5	138	4.3	448	40.4	167	15.0	96	16.1	0.0	0.0	286	25.8	40	3.6
公共交通機関が整っているか	1050	32.7	542	16.9	202	11.5	5.4	32.0	617	19.2	275	8.6	308	27.7	161	14.5	61	10.2	4.3	29.7	181	16.3	85	7.7
都市部へのアクセス性は良いか	920	28.7	470	14.6	171	9.7	4.9	33.6	621	19.3	261	8.1	296	26.7	147	13.2	64	10.7	2.5	18.9	195	17.6	93	8.4
近所付き合いが良好か	258	8.0	379	11.8	186	10.6	1.2	10.2	192	6.0	79	2.5	113	10.2	119	10.7	65	10.9	0.0	0.0	88	7.9	25	2.3
地域に同世代の住人が多いか	234	7.3	342	10.7	152	8.6	2.1	19.6	169	5.3	102	3.2	104	9.4	88	7.9	35	5.9	2.0	25.3	73	6.6	48	4.3
趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか	810	25.2	518	16.1	210	11.9	4.2	26.1	476	14.8	286	8.9	285	25.7	154	13.9	68	11.4	2.5	18.0	162	14.6	103	9.3
リフレッシュできる施設・環境があるか	649	20.2	429	13.4	174	9.9	3.5	26.1	412	12.8	212	6.6	223	20.1	135	12.2	68	11.4	0.8	6.6	145	13.1	79	7.1
その他	34	1.1	22	0.7	13	0.7	0.0	0.0	23	0.7	27	0.8	12	1.1	5	0.5	3	0.5	0.0	0.0	3	0.3	8	0.7
特になし	1035	32.2	1452	45.2					1292	40.2	1406	43.8	372	33.5	513	46.2					443	39.9	478	43.1
現在転職を検討していない											978	30.5											342	30.8

地域で働く薬剤師の確保策（三師統計の解析結果より）①

- 現在、各都道府県に従事する薬剤師（病院/薬局/診療所）のうち、都道府県内に出身地がある人の割合は約6割であり、**採用にあたっては都道府県内に出身地がある人にアプローチが特に有用であると考えられる。**
- 全業種における集計結果と病院・診療所・薬局のみの集計結果を比較すると、「出身地=出身大学=従事先」「出身地=従事先」「出身大学=従事先」いずれも、「全業種」よりも「病院・診療所・薬局」に勤務する薬剤師において高い割合となっている。よって、病院・診療所・薬局が薬剤師確保を行う際には、それ以外の業種と比較して、出身地・出身大学に対応したアプローチが有用であると考えられる。

三師統計

出身地 = 出身大学 = 従事先（全業種-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	23450	100219	123669	19.0%
女	42663	153954	196617	21.7%
総計	66113	254173	320286	20.6%

出身地 = 従事先（全業種-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	65486	58756	124242	52.7%
女	109750	87990	197740	55.5%
総計	175236	146746	321982	54.4%

出身大学 = 従事先（全業種-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	36878	86791	123669	29.8%
女	63631	132986	196617	32.4%
総計	100509	219777	320286	31.4%

出身地 = 出身大学 = 従事先（病院/薬局/診療所のみ-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	18563	68168	86731	21.4%
女	36471	126172	162643	22.4%
総計	55034	194340	249374	22.1%

出身地 = 従事先（病院/薬局/診療所のみ-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	53090	34049	87139	60.9%
女	94107	69339	163446	57.6%
総計	147197	103388	250585	58.7%

出身大学 = 従事先（病院/薬局/診療所のみ-都道府県別）

性別	一致する薬剤師数(人)	不一致の薬剤師数(人)	総計	一致の割合
男	26459	60272	86731	30.5%
女	52766	109877	162643	32.4%
総計	79225	170149	249374	31.8%

地域で働く薬剤師の確保策（三師統計の解析結果より）②

- 従事先と出身地・出身大学の関係を、関東地方などの地方別にみたところ、従事先と出身地が同じ地方である割合は70%~90%と高く、従事先と出身大学が同じ地方である割合が50%~80%である地方が過半を占めた。
- 出身都道府県内及び出身地方内で働きたいというニーズが現れたものである可能性がある。そのため、**都道府県内の薬剤師確保に際し、自都道府県のみならず、同一地方に出身地・出身大学がある人へアプローチをすることが効果的と考えられる。**

三師統計

従事先地方別にみる出身地方の所在地構成（病院/薬局/診療所のみ）

		従事先地方										出身大学地方	
		北海道	東北	南関東	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州		
出身地方	北海道	実数(人)	7644	316	1258	153	57	159	173	42	20	123	
	割合(%)	79.6%	2.1%	1.7%	0.9%	0.7%	0.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.5%		
東北	実数(人)	485	12311	3149	612	211	348	211	69	30	158		
	割合(%)	5.0%	82.1%	4.1%	3.6%	2.4%	1.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.6%		
南関東	実数(人)	598	1072	52461	2999	517	1875	981	366	215	923		
	割合(%)	6.2%	7.1%	68.9%	17.6%	5.9%	7.4%	2.3%	2.5%	2.9%	3.5%		
北関東・甲信	実数(人)	184	460	5733	11543	305	618	325	82	46	181		
	割合(%)	1.9%	3.1%	7.5%	67.9%	3.5%	2.4%	0.8%	0.6%	0.6%	0.7%		
北陸	実数(人)	74	235	1633	307	6654	402	507	72	31	94		
	割合(%)	0.8%	1.6%	2.1%	1.8%	76.2%	1.6%	1.2%	0.5%	0.4%	0.4%		
東海	実数(人)	153	176	3024	414	311	19176	1319	197	100	254		
	割合(%)	1.6%	1.2%	4.0%	2.4%	3.6%	75.4%	3.1%	1.4%	1.3%	1.0%		
近畿	実数(人)	272	207	3354	419	433	1660	34063	1012	524	863		
	割合(%)	2.8%	1.4%	4.4%	2.5%	5.0%	6.5%	80.8%	7.1%	7.0%	3.2%		
中国	実数(人)	64	64	1770	173	94	430	1879	11201	322	967		
	割合(%)	0.7%	0.4%	2.3%	1.0%	1.1%	1.7%	4.5%	78.0%	4.3%	3.6%		
四国	実数(人)	34	34	1022	85	43	262	1437	559	5973	278		
	割合(%)	0.4%	0.2%	1.3%	0.5%	0.5%	1.0%	3.4%	3.9%	80.2%	1.0%		
九州	実数(人)	97	127	2719	287	103	519	1243	754	191	22888		
	割合(%)	1.0%	0.8%	3.6%	1.7%	1.2%	2.0%	2.9%	5.3%	2.6%	85.6%		
総計	実数(人)	9605	15002	76123	16992	8728	25449	42138	14354	7452	26729		
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

※割合：分子「出身地方と従事先地方が一致している薬剤師数」、分母「地方内に従事している薬剤師」
 ※色づけ：最大値（濃色）・最小値（無色）として、値の大きさに合わせて色づけ

従事先地方別にみる出身大学地方の所在地構成（病院/薬局/診療所のみ）

		従事先地方										出身大学地方
		北海道	東北	南関東	北関東・北陸	東海	近畿	中国	四国	九州		
北海道	実数(人)	6590	1026	1284	443	125	349	331	141	39	369	
	割合(%)	67.9%	6.8%	1.7%	2.6%	1.4%	0.8%	1.0%	0.5%	1.4%		
東北	実数(人)	1040	8752	2640	1667	348	549	248	97	55	175	
	割合(%)	10.7%	58.4%	3.4%	9.8%	4.0%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%		
南関東	実数(人)	1378	3562	61518	10698	1986	5451	2000	1695	912	3105	
	割合(%)	14.2%	23.7%	80.3%	62.9%	22.7%	21.4%	4.7%	11.7%	12.2%	11.6%	
北関東・甲信	実数(人)	17	186	444	1020	43	82	14	9	1	51	
	割合(%)	0.2%	1.2%	0.6%	6.0%	0.5%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	
北陸	実数(人)	174	821	2291	1615	4784	2266	1595	431	186	513	
	割合(%)	1.8%	5.5%	3.0%	9.5%	54.6%	8.9%	3.8%	3.0%	2.5%	1.9%	
東海	実数(人)	91	168	1504	503	357	12398	1314	499	235	731	
	割合(%)	0.9%	1.1%	2.0%	3.0%	4.1%	48.6%	3.1%	3.5%	3.2%	2.7%	
近畿	実数(人)	242	218	3681	540	887	3043	32299	3620	1781	2019	
	割合(%)	2.5%	1.5%	4.8%	3.2%	10.1%	11.9%	76.0%	25.0%	23.9%	7.5%	
中国	実数(人)	24	32	615	66	54	336	1398	4638	651	1180	
	割合(%)	0.2%	0.2%	0.8%	0.4%	0.6%	1.3%	3.3%	32.1%	8.7%	4.4%	
四国	実数(人)	31	24	604	102	51	417	2091	1135	3134	1057	
	割合(%)	0.3%	0.2%	0.8%	0.6%	0.6%	1.6%	4.9%	7.9%	42.0%	3.9%	
九州	実数(人)	119	209	1997	359	123	598	1219	2187	460	17562	
	割合(%)	1.2%	1.4%	2.6%	2.1%	1.4%	2.3%	2.9%	15.1%	6.2%	65.6%	
総計	実数(人)	9706	14998	76578	17013	8758	25489	42509	14452	7454	26762	
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

※割合：分子「出身大学地方と従事先地方が一致している薬剤師数」、分母「地方内に従事している薬剤師」
 ※色づけ：最大値（濃色）・最小値（無色）として、値の大きさに合わせて色づけ

地方部や僻地で働く薬剤師を増やすための方策

- 地方部、僻地で「いずれの条件でも勤務したくない」という人は地方部では8.6%、僻地では36.3%であり、それらを100%から控除した、91.4%、63.7%の薬剤師は地方部、僻地で条件によらず、また条件によっては勤務しても良いと考えていた。
- 都市部から地方部や僻地に移動した際の状況をみると、「**20代**」という回答が最も高く、また移動した時点で「**単身世帯であった**」人が44.0%で最も高く、また都市部から地方部や僻地に勤務地を移動した理由の最上位に「**生活面**」があげられ、「給与面」、「仕事面」より20ポイント程度、回答割合が高かった。
- 地方部や僻地で働く薬剤師を増やすためには**若い単身世帯の薬剤師をターゲットとして、薬剤師が地域で居住する際の生活面を重視した確保策（例：居住先の斡旋、費用の補助、入職当初は生活面への助言体制を強化するなど）を企画・運営することが有用と言える。**

薬剤師
本人票

地方部で勤務してもよいと考える条件 (現在所属している業態別、年齢別)

Q2-10 ②地方部（僻地以外）で勤務してもよいと考える条件
業態×年齢

	調査数	給与面（給与水準、昇給ベース）の条件	仕事面（給与面以外）の条件	生活面の条件	その他の条件	条件によらず勤務してもよい	いずれの条件でも勤務したくない	無回答
全体	11699	8249	6582	7281	232	714	1005	-
	100.0	70.5	56.3	62.2	2.0	6.1	8.6	-

僻地で勤務してもよいと考える条件 (現在所属している業態別、年齢別)

Q2-10 ③僻地で勤務してもよいと考える条件
業態×年齢

	調査数	給与面（給与水準、昇給ベース）の条件	仕事面（給与面以外）の条件	生活面の条件	その他の条件	条件によらず勤務してもよい	いずれの条件でも勤務したくない	無回答
全体	11699	5931	4328	5425	221	324	4241	-
	100.0	50.7	37.0	46.4	1.9	2.8	36.3	-

都市部から地方部や僻地に勤務地を移動した年代

	調査数	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
全体	8379	4569	1184	318	148	60	3	2097
	100.0	54.5	14.1	3.8	1.8	0.7	0.0	25.0

都市部から地方部や僻地に勤務地を移動したときに一緒に移動した人

	調査数	ご移動した時点で二人以上世帯で、ご回答者様以外の人とともに移動した	ご移動した時点で単身世帯であった	無回答
全体	8379	1482	507	3686
	100.0	17.7	6.1	44.0

都市部から地方部や僻地に勤務地を移動した理由

	調査数	給与面	仕事面（給与面以外）	生活面	その他	特に理由はない
全体	3464	699	1030	1676	355	570
	100.0	20.2	29.7	48.4	10.2	16.5

病院で働く薬剤師を増やすための方策①

- 病院で勤務してもよいと考える条件について傾向を見たところ、年齢が高くなるに従い、薬局薬剤師において「いずれの条件でも勤務したくない」という薬剤師の割合が高くなる傾向がみられた。これは業態の違いにより業務スキルが異なり、業態を超えて転職をする際に業務スキルを身に付ける際の障壁が大きくなるためだと考えられた。病院で働く薬剤師を増やすためには**20代～40代の薬剤師をターゲットとして確保策を企画することが有用と言える。**
- また、給与面が勤務してもよいと考える条件の最上位に挙げられていたものの、仕事面、生活面についても相応に高い割合で回答されていたことから、**給与面だけでなく仕事面、生活面の条件を、求職する薬剤師にとって魅力的なものとすることや、求職する薬剤師の個人属性に応じたアピールをすることで、病院で働く薬剤師を増やすことにつながると考えられる。**

病院で勤務してもよいと考える条件（現在所属している業態別、年齢別）

薬剤師
本人票

	調査数	給与面（給与水準、昇給ベース）	仕事面（給与面以外）の条件	生活面の条件	その他の条件	条件によらず勤務してもよい	いずれの条件でも勤務したくない	無回答
全体	11699	8109 100.0	6746 69.3	5778 57.7	223 1.9	789 6.7	1490 12.7	-
病院20代	1855	1467 100.0	1221 79.1	1038 65.8	21 1.1	134 7.2	37 2.0	-
病院30代	2971	2363 100.0	2008 79.5	1753 67.6	47 1.6	219 7.4	77 2.6	-
病院40代	1965	1541 100.0	1338 78.4	1140 68.1	56 2.8	127 6.5	59 3.0	-
病院50代	1433	1054 100.0	884 73.6	747 61.7	46 3.2	121 8.4	66 4.6	-
病院60代	467	284 100.0	244 60.8	190 52.2	14 3.0	54 11.6	45 9.6	-
病院70代以上	40	17 100.0	18 42.5	16 45.0	1 2.5	5 12.5	6 15.0	-
薬局20代	347	188 100.0	125 54.2	114 36.0	2 0.6	14 4.0	122 35.2	-
薬局30代	797	446 100.0	306 56.0	293 38.4	9 1.1	29 3.6	267 33.5	-
薬局40代	760	385 100.0	296 50.7	247 38.9	14 1.8	29 3.8	275 36.2	-
薬局50代	612	263 100.0	210 43.0	176 34.3	12 2.0	29 4.7	264 43.1	-
薬局60代	367	85 100.0	82 23.2	52 22.3	1 14.2	22 6.0	217 59.1	-
薬局70代以上	81	13 100.0	11 16.0	10 13.6	-	6 7.4	54 66.7	-

病院で働く薬剤師を増やすための方策②

- 出身大学種別（国立・公立・私立・外国）と従事先業務の関係について分析したところ、どの出身大学種別においても薬局従事者の割合が最も高かったが、私立大学出身者の6割は薬局で従事しており、最も薬局での従事割合が高かった。また、国公立大学出身者は医薬品関係企業(医薬品製造販売業・製造業、配置販売業、卸売販売業)に従事する割合が私立大学出身者と比較すると高かった。他方、病院、診療所、介護保険施設に従事している薬剤師の割合は出身大学の種別によってあまり変わらない状況であった。
- 病院、診療所、介護保険施設に従事する薬剤師の確保においては出身大学の種別によらず募集することが望まれる。特に私立大学の学生において薬局に従事する割合が高くなっていることから、**私立大学の学生が病院に従事することを促進する施策の検討が必要である**と考えられる。

三師統計

出身大学別にみる従事先業務種別

	国立 (実数)	国立 (割合)	公立 (実数)	公立 (割合)	私立 (実数)	私立 (割合)	外国 (実数)	外国 (割合)
薬局	13633	41%	5341	45%	169201	61%	37	63%
病院	5399	16%	1781	15%	48364	18%	7	12%
診療所	623	2%	219	2%	4765	2%	4	7%
介護保険施設	101	0%	61	1%	815	0%	1	2%
大学	1700	5%	339	3%	3054	1%	3	5%
医薬品関係企業(店舗販売)	484	1%	167	1%	5875	2%	1	2%
医薬品関係企業(その他)	6901	21%	2193	19%	23288	8%	2	3%
衛生行政機関又は保健衛生施設	1393	4%	644	5%	4708	2%	0	0%
その他	1330	4%	471	4%	5792	2%	3	5%
無職	1574	5%	526	4%	9473	3%	1	2%
総計	33140		11742		275345		59	

病院で働く薬剤師を増やすための方策③

- 業務の種別をもとに、平成30年度届出時点から令和2年度届出にかけて薬局・病院以外から「薬局」と「病院」に転職した人の属性を分析したところ、薬局・病院以外から薬局に転職した人は2,911人、病院に転職した人は1,049人であり、病院よりも薬局への転職が約2.8倍多くなっていた。
- 薬局・病院以外の業種から薬局に転職した人の元の業種は、医薬品関連企業が69.9%で最も高かった。
- 薬局・病院以外の業種から病院に転職した人の元の業種は、診療所（39.3%）が最も高く、次いで「医薬品関連企業（19.4%）」、「衛生行政機関又は保健衛生施設（17.2%）」であり、薬局への転職者と比べると、偏りが少ないと言える。
- 病院薬剤師の確保においては、病院からの流出を防ぐと同時に、薬局に勤務する薬剤師に対して病院での薬剤師業務の魅力をアピールするなどの施策の検討が必要であると考えられる。また、**病院薬剤師の確保においては、医薬品関連企業からの転職を検討している薬剤師の確保策を企画・運営することも有用と考えられる。**

三師統計

H30/R2の薬局・病院間の転職状況

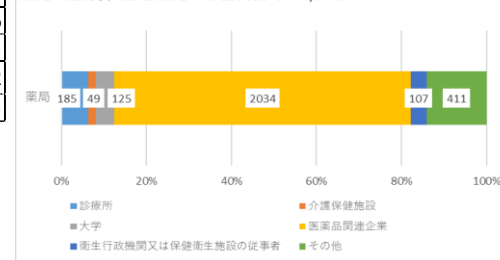
実数(人) 割合(%)	H30届出					総計
	薬局	病院	その他	無職	H30届出なし	
薬局	159835 96.1%	3380 6.5%	2911 5.1%	1160 14.7%	21696 54.9%	188982 58.7%
病院	1830 1.1%	46542 90.1%	1049 1.9%	178 2.3%	6349 16.1%	55948 17.4%
その他	2428 1.5%	1238 2.4%	51711 91.3%	389 4.9%	9446 23.9%	65212 20.3%
無職	2214 1.3%	483 0.9%	993 1.8%	6142 78.0%	1992 5.0%	11824 3.7%
無回答	1 0.0%	-	-	1 0.0%	14 0.0%	16 0.0%
総計	166308 100%	51643 100%	56664 100%	7870 100%	39497 100%	321982 100%

その他：病院・薬局以外の業務の種別（無職と届出なしの者を除く）

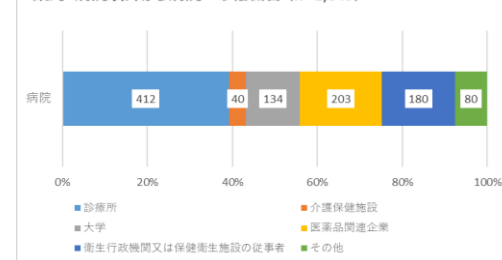
薬局・病院以外の業種（左図の「その他」）から 薬局・病院等に転職した薬剤師の元の業種

実数(人) 割合(%)	H30届出						総計
	診療所	介護保健施設	大学	医薬品関連企業	衛生行政機関 又は保健衛生施設	その他	
薬局	185 6.4%	49 1.7%	125 4.3%	2034 69.9%	107 3.7%	411 14.1%	2911 100%
病院	412 39.3%	40 3.8%	134 12.8%	203 19.4%	180 17.2%	80 7.6%	1049 100%

薬局・病院以外から薬局への転職者 (N=2,911)



薬局・病院以外から病院への転職者 (N=1,049)



薬剤師の偏在への対応策の検討 まとめ

①病院・薬局間の給与格差の実態

- 65歳まで働くことを想定した場合、常勤の病院薬剤師と薬局薬剤師との生涯年収の差額は512万円であり、大きな差異はみられなかった。学生が就職先を選択する際に考慮する要素の上位に「給与水準」があげられており20代での病院・薬局間の給与格差が病院への就職に影響していることが考えられる中、**病院における対応策として、薬局に近づくよう、年代別の給与水準の上昇率をなだらかにし、生涯年収は変えずに20代、30代の給与水準を高くすることが考えられる。**

②就職前に就職先に関する情報提供を行うことによる効果

- 就職前に就職後の「昇給ペース」、「業務内容・やりがい」について知らない人ほど、就職後に転職を考える人の割合が高くなる傾向がみられた。このことから**薬剤師の離職防止のために、昇給ペース、業務内容・やりがいなどについて就職前に十分に情報提供を行うことが望まれる。**

③薬剤師のニーズを捉えた薬剤師確保策

- 仕事面で、就職前に重視していた点の上位であげられた事項は、病院では業務内容・やりがい・給与水準であるが、薬局では給与水準・通勤時間の長さ・勤務時間の長さであるなど、病院・薬局とで薬剤師が重視する事項は異なる。これらから**採用活動において病院・薬局ごとに薬剤師が重視する事項の違いを踏まえ確保策を企画・運営することが有用**と言える。
- また生活面でも「住居が快適か」など重視している点があったことから、採用活動において**生活面で重視する事項の環境整備を企画・運営することも有用**と考えられる。

④地方部や僻地で働く薬剤師を増やすための方策

- 現在、各都道府県に従事する薬剤師のうち、都道府県内に出身地がある人の割合は約6割であり、**採用にあたっては都道府県内に出身地がある人にアプローチが特に有用であると考えられる。**
- 従事先と出身地・出身大学の関係を、関東地方などの地方別にみたとすると、従事先と出身地が同じ地方である割合は70%~90%と高く、従事先と出身大学が同じ地方である割合は50%~80%である地方が過半を占めた。このことから、薬剤師確保に際し、自都道府県のみならず、同一地方に出身地・出身大学がある人へアプローチをすることが効果的と考えられる。
- 地方部については91.4%、僻地については63.7%の薬剤師が、条件によらず、また条件によっては、これらの地域で勤務しても良いと考えていた。都市部から地方部や僻地に移動した際の状況をみると、「20代」という回答が最も高く、また移動した時点で「単身世帯であった」人が44.0%で最も高く、また都市部から地方部や僻地に勤務地を移動した理由の最上位に「生活面」があげられたことを踏まえると、**地方部や僻地で働く薬剤師を増やすためには若い単身世帯の薬剤師をターゲットとして、薬剤師が地域で居住する際の生活面を重視した確保策を企画・運営することが有用**と言える。

⑤病院で働く薬剤師を増やすための方策

- 年齢が高くなるに従い、薬局薬剤師において「いずれの条件でも勤務したくない」という薬剤師の割合が高くなる傾向がみられたが、これは業態の違いにより業務スキルが異なり、業態を超えて転職をする際に業務スキルを身に付ける際の障壁が大きくなるためと考えられた。このことから、病院で働く薬剤師を増やすためには**20代~40代の薬剤師をターゲットとして確保策を企画することが有用**と言える。また勤務してもよいと考える条件の最上位に給与面が挙げられていたものの、仕事面、生活面についても相応に高い割合で回答されていたことから、**給与面だけでなく仕事面、生活面の条件を、求職する薬剤師にとって魅力的なものとすることや、求職する薬剤師の個人属性に応じたアピールをすることで、病院で働く薬剤師を増やすことにつながると考えられる。**
- 私立大学の学生において薬局に従事する割合が高くなっていることから、**私立大学の学生が病院に従事することを促進する施策の検討が必要である**と考えられる。
- 病院薬剤師の確保においては、**医薬品関係企業からの転職を検討している薬剤師の確保策を企画・運営することも有用**と考えられる。